

儀礼文化

五つの提言

日本文化の形と心を探ろう
生活に季節を織り込もう
わが家の年中行事を作ろう
子どもたちに伝統文化を伝えよう
ふるさとの祭りや行事に参加しよう

〔発行所〕 一般社団法人 儀礼文化学会
〒160-0012 東京都新宿区南元町 13-7
電話 03 (3355) 4188



開館 77 周年

明治記念館



地区を練り歩いて海岸へと向かう。コロナ禍後に始められた子ども天王船もこの前を練り歩いている。

厄災を麦わら舟に載せて海に流す

◎ 祭事スケッチ——写真と文 久保田裕道

〔静岡県静岡市 由比北田の天王船流し〕

新幹線に乗っていると気づかないうちに通り過ぎてしまうが、東海道線や東名高速道路では、静岡の手前で美しい海岸線に近づくところがある。桜えびでも有名な由比の海岸である。その由比の北田地区で、夏になると行われる年中行事が「天王船流し」。麦わらで帆掛け舟を作って、そこに人々の厄を移したオスガタと呼ばれる人形を乗せ、海に流す。

静岡県下には天王信仰に基づいた夏祭りや盆の時期に、こうした厄災を川や海に流す行事が多く見られる。夏の行事であるだけに、夏の作物である麦わらを使うところが多いが、現在では麦わらの入手もなかなか困難になってきた。北田地区では、静岡市山間部との交流によって入手していた時期もあったが、現在では自分たちで、材料確保のために麦を栽培するようになった。

また、以前は砂浜で舟を作ってそのまま海に流した。しかし海岸を東名高速とバイパスが通るようになり、砂浜は失われてしまった。現在では神社で作ってから皆で担いで練り歩き、海岸近くの川の河口で水に浸した後に、焼却するようになっている。時代とともに行事の在り方も変わるが、厄災を払う願いだけは変わっていない。



東名高速道路の下で川の中を曳き回す

◎ 由比北田の天王船流し

静岡県静岡市由比北田

北野天神宮（境内の津島神社）

祭日 七月海の日前の土曜日